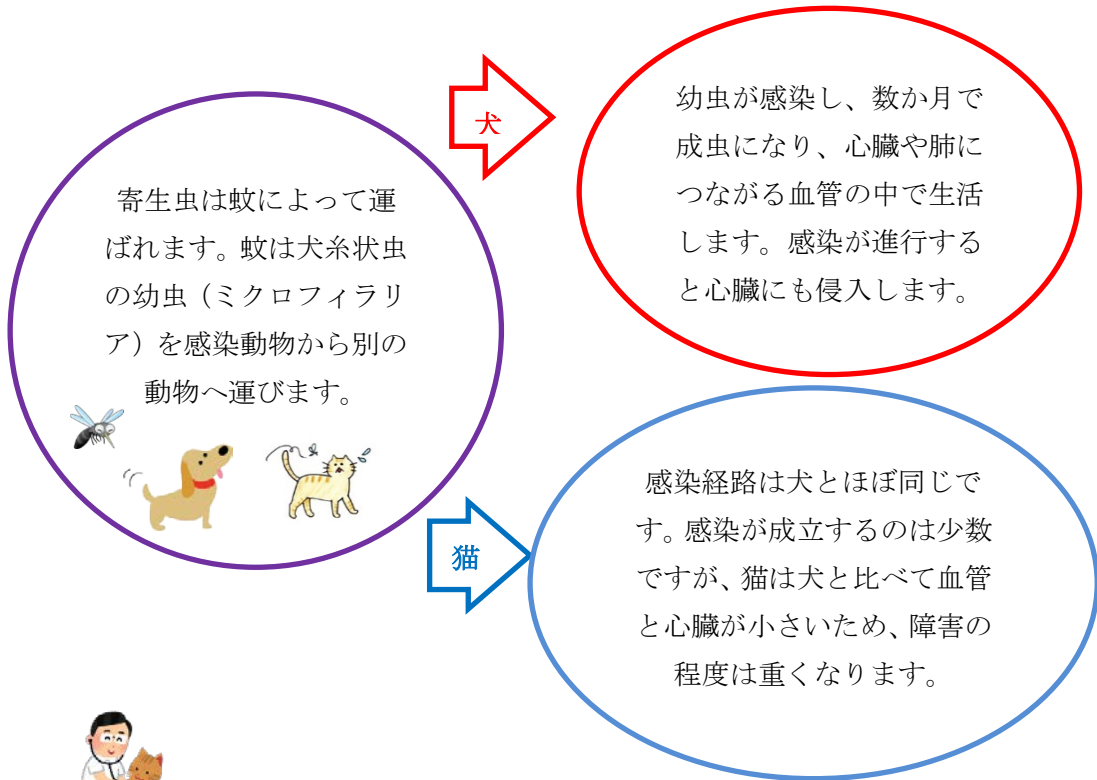


# Information\_4

気候も春らしくなってきましたが、温かくなってきたら始めたい予防のひとつがフィラリアです。そこで今回は犬と猫のフィラリアについてのお話です。

## 犬・猫のフィラリア（犬糸状虫）症のサイクル



## フィラリア豆知識

- ・フィラリアは、室内・外飼い問わず感染することがあります。
- ・猫は犬に比べていくぶん犬糸状虫の感染には耐性があると言われています。
- ・近年では、犬糸状虫の雌だけの寄生、または少数寄生のときに幼虫（マイクロフィラリア）が検出できないオカルト感染と呼ばれるものが多いと言われています。



## 症状



動物	症状
犬	犬糸状虫症は、感染が進行すると死に至る病気です。症状は咳・運動不耐性、成長不良、努力性呼吸、皮膚に青白いシミ、紫がかかったシミ、喀血、失神、鼻出血などが起こります。
猫	犬糸状虫症に感染すると急死することがあります。 ・成虫寄生が認められる猫の症状は喘息の症状に類似しています。間欠性の嘔吐、嗜眠、発咳、時おり見せる浅い呼吸などがあります。 ・犬糸状虫が体内で死滅すると、突然の呼吸困難、ショック（急激な命に関わる低血圧）を起こします。

## 予防薬について

月に一度投与すお薬は「予防薬」ではなく「駆虫薬」で、ある程度犬・猫の体内で成長した犬糸状虫の幼虫（マイクロフィラリア）の駆除が目的です。当院では蚊が出始める4月から蚊がいなくなるまでの12月、あるいは通年（年間）予防をおすすめしています。

